

1.3 語学力の強化および国際性の育成（英語分野）

(1) 研究開発の課題（概要）

国際社会の現状と日本人に必要な資質について高校生に伝え、国際社会に生き抜くことがどれほど厳しいものになりつつあるのかを意識させるために企画した。

(2) 研究開発の経緯

日本人学生と外国人留学生の意識がどのように違うのか、現代の学生に求められている語学力はどの程度なのか、また国際社会の競争に生き延びるにはどのようなスキルが企業から求められているのかを、現在、名古屋大学の国際化プログラム(G30)を企画運営している教授から直接話していただけるよう依頼した。

(3) 仮説（ねらい、目標）

事前課題として、教授の経歴を英語で読ませ、講演の導入になる質問の答えとその根拠を英文で書かせることで、語彙、相手を説得させられる表現力の増強につながると思った。4つのキーワード Global Thinking, Sustainability, Integrity, Creativity のなかで最も重要なものが Creativity である理由が講演中に理解できれば、国際社会の現状を認識できると考えた。

(4) 研究の方法および内容

ア 対象生徒

2年生普通科文系理系生徒 8学級

3年生普通科理系生徒 5学級

イ 実施日時

平成24年11月6日（火）4, 5限

ウ 実施場所

アイプラザ一宮 講堂

エ 講演内容

演題「社会で役立つスキル」

講師 名古屋大学国際企画課特任教授 Go Yoshida 先生

内容 ① これからの指導者に必要な資質

（フリーディスカッション）

② 世の中を動かす2つのトレンド Globalization, IT Revolution

③ 国際競争に勝つためのポイント

（質疑応答）

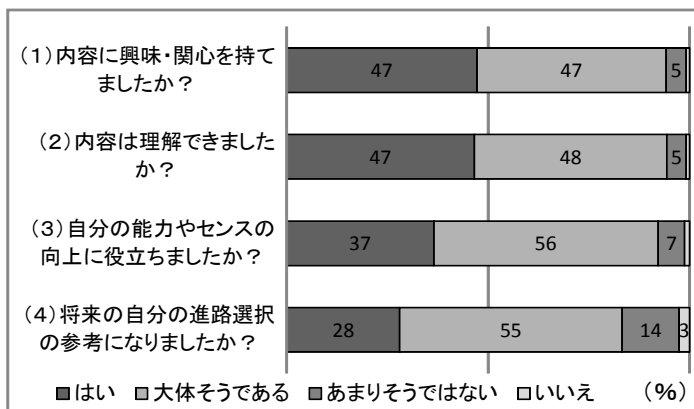


講演会の様子

(5) 検証（成果と反省）

ア 事後アンケートの結果から

内容への興味関心、理解は90%を超える生徒が肯定的な回答をしている。また国際感覚（世界を理解する気持ち）も多く生徒が高まったと感じている。



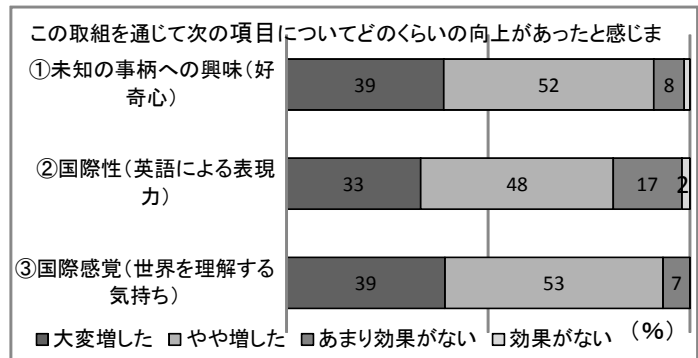
イ 生徒の感想から

- ・グローバル化が進む今の社会についていろいろ感じるものがあった。そして何より英語が世界をつなぐのだと思った。
- ・これからは普遍的なことをやるのではなくて他と異なっていたクリエイティブなことをやっていかなくてはいけないと感じた。そして国際言語である英語の重要性を感じた。

- ・いつもの講演と違い、例を多く挙げ舞台の上や客席を歩きながらの講演だったので堅苦しい感じがなく興味を持ち最後まで聞くことが出来た。これが外国人の発表の仕方かと思った。
- ・英語でも講演を聴く機会をもっと作って欲しい。3年生文系にも英語での講演を聴かせて欲しい。
- ・初めて英語のSSH講演で英語の理解や関心が高まった。英語に触れるよい機会だった。

ウ 検証

生徒の感想より、語学力は当然必要であるということが理解されており、今後の学習意欲の向上につながったと言える。また企業の採用条件などの内容を聞き、現在の自分の日本の立場を知るよい機会になったと思われる。



講師に質問する生徒